



研究者名※	森 恭子 MORI Kyoko	学位※	博士（社会福祉学）
所属※	人間社会学部 社会福祉学科	職名※	教授
連絡先	morik@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.		
researchmap※	https://researchmap.jp/KyokoMori0805		
研究分野※	社会科学		
研究キーワード※	国際福祉、地域福祉、ソーシャルワーク		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・難民の社会統合とソーシャル・キャピタルに関する研究(科学研究費・基盤C・研究分担者、2014-2017) ・移民・難民の統合プロセスにおけるソーシャルワークに関する研究(科学研究費・基盤C・研究代表、2017-2020) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・越谷市 社会福祉審議会 地域福祉専門部会 会長（2015-現在に至る） ・日本ソーシャルワーカー連盟(JFSW) 国際委員会 委員（2020-現在に至る） ・社会福祉法人日本国際社会事業団 評議員選任・解任委員（2021年6月-現在に至る） ・神奈川県立地球市民かながわプラザ 講演「外国人支援における連携について-地域福祉の観点から-」（2022年1月） 		
受賞歴	日本ソーシャルワーク学会 学術奨励賞(2019年度) (著書『難民のソーシャル・キャピタルと主観的統合』現代人文社、2018年3月)		

研究領域	国際福祉、ソーシャルワーク	(SDGs)	
研究テーマ※	外国人住民への包括的支援体制づくりを担うソーシャルワーク実践に関する研究		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>日本の労働力不足を背景に、現在、政府の外国人人材の受入れ・共生政策が推進されている。今後、日本に在住する外国人の増加が見込まれる中で、外国人の福祉ニーズが増すとともに、言葉・文化・宗教・習慣等の違いによって日本人とのコンフリクト(対立)が懸念される。</p> <p>本研究は、さまざまな生活困難を抱える外国人住民を総合的に支援する地域のコーディネーター人材のあり方、および外国人の定住・統合(共生)支援におけるソーシャルワーク実践について検討することを目的とする。研究内容は、国内外の外国人(もしくは移民・難民)を支援している先駆的な地域の機関・団体の実践方法について調査し、そこから知見を得る。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>日本ソーシャルワーカー連盟と類似のテーマで調査を実施し(2021年)、研究責任者として調査報告書をまとめるとともに、ソーシャルワーカーデー(2022年3月)でシンポジウムを開催することができた(モデレーターを務める)。シンポジウムは厚生労働省、出入国在留管理庁の後援の下、約200名の参加者(オンライン)を得た。現場の福祉職員の参加が多く、国内外での先駆的な事例やソーシャルワークに求められる知識・スキル等をまとめた調査報告が、現場の実践に活用されることが期待される。</p> <p>研究の展望として、日本の地域社会の延長上に、外国人の出身国の社会もあり、彼らのトランスナショナルな生活構造を見据え、日本および出身国のソーシャルワーカー等との支援の連携方法も考える必要がある。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人および外国人支援団体のフィールド調査の方法、事例分析ができることが強みである。 		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・森恭子「外国人住民への包括的支援体制づくりを担うコミュニティ・ソーシャルワーク実践と地域の拠点のあり方について」、『文教大学人間科学部紀要』 p.91-106、2022年 ・森恭子「Ⅲ.調査のまとめ」Ⅳ. 今後に向けた示唆『多様な文化的背景をもつ地域住民(外国人等)に対する総合的な支援をコーディネートする多文化ソーシャルワークに関する調査研究』報告書、日本ソーシャルワーカー連盟発行、pp.72-90、2022年3月 		
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省、総務省、出入国在留管理庁との外国人支援・共生社会の推進に関する政策研究 ・市町村、社会福祉協議会、国際化交流協会、民間支援団体との多文化共生施策の調査・実践研究 ・諸外国の大学教育機関との国際比較研究 		